

## 野菜の高温対策実証圃について

近年、各品目において、夏の高温による農産物生産への影響が拡大しており、長期予報では今年の夏も例年より暑くなるとのことです。このような状況に対応するため、生産部会やJA、市町などの関係機関と連携して、高温対策実証圃を設置しています。今回は、本年度の野菜における主な実施状況をご紹介します。

### 【各実証圃の実施状況】

#### 1 トマトにおける外気導入技術実証

##### (1) 試験の背景と目的

近年の生育適温を大きく外れた夏期の高温によって花芽分化の異常による着果不良や果実品質の低下が顕著になっています。そこで、ハウス内より気温が低い外気を強制的に施設内に導入することで、生育や収量・品質がどのような影響を受けるのかを調査し、生産安定に向けた取組材料とします。

##### (2) 設置状況（設置場所、試験区の構成、面積等）

九重町栗原の6×50mハウス2棟を使用し、外気導入の有無により比較試験を実施中です。品種はいずれも“りんか”で、5月9日に定植しています。



【写真左：設置した外気導入用のファンで外気を強制的にハウス内に引き込む】

【写真右：外気を全体に行き渡らせるダクト。斜め下向きに穴が空いており、導入した外気をハウス内に吹き出す】

##### (3) 現在の実施状況と今後の計画

2週間ごとに開花段数、花数、莖径、2週間の生長量を調査しています。また県農業研究部が気温、湿度、炭酸ガス濃度を計測しています。

#### 2 ピーマンにおける遮光資材及び白黒マルチ利用技術実証

##### (1) 試験の背景と目的

近年の猛暑により夏秋ピーマンでは赤果、日焼け果、花落ち等が増加し、収量・品質に影響を及ぼしています。そこで、各種資材を利用した高温対策の実証を行っています。

### ① 白黒マルチ導入による地温上昇の抑制

定植時期は地温確保のため黒マルチを使用しますが、夏季は猛暑で地温が上がりピーマンの根を傷めてしまい、障害果の発生につながります。そこで、梅雨明け前に白黒マルチを設置し地温上昇の抑制を実証します。

### ② 開閉式寒冷紗の設置によるハウス内の気温上昇の抑制

固定式の寒冷紗被覆では、障害果は減りますが曇天時も遮光をするため、ピーマンが徒長気味になります。そこで、晴天日は遮光し曇天日は寒冷紗を巻き上げることができる開閉式の寒冷紗システムの導入を実証します。

#### (2) 設置状況

### ① 白黒マルチ導入による地温上昇の抑制

設置予定場所：玖珠・九重・日田（ハウス栽培）

試験区：実証区 7月中下旬に畝上に白黒マルチを設置

対照区 黒マルチ



### ② 開閉式寒冷紗の設置によるハウス内の気温上昇の抑制

設置場所：玖珠（6mハウス栽培）

試験区：実証区 農POフィルムの天井に7月上旬に開閉式寒冷紗（55%遮光）の設置

対照区 農POフィルム



#### (3) 現在の実施状況と今後の計画

### ① 白黒マルチ導入による地温上昇の抑制

試験区に白黒マルチを設置後、地温の測定及び障害果の発生調査を行なう予定です。

### ③ 開閉式寒冷紗の設置によるハウス内の気温上昇の抑制

7月2日に寒冷紗を設置しました。ハウス内温度の測定及び収量調査、障害果の発生調査を実施していきます。

この他、花卉ではカスミソウで遮光と白黒マルチを組み合わせた実証試験を実施中です。各試験の結果については、データを取りまとめの上、随時お知らせします。

# トビイロウンカやいもち病に注意しましょう！（水稻）

## 【トビイロウンカについて】

トビイロウンカの飛来が大分県を含め九州各県で確認されています。大分県では、例年より1ヶ月ほど早くトビイロウンカの幼虫が確認されたため6月20日に注意報が発令されました。気温が高く雨が少ない年には、発生が多くなる傾向にあるため、今後の気象条件によっては、飛来量の増加もあり得ます。

つきましては、トビイロウンカの発生状況に注意し基幹防除を徹底してください！

### 1 「トビイロウンカ」の侵入経路

トビイロウンカは、6月～7月の梅雨時期に気流に乗って中国から飛来します。

飛来後、3世代かけて増殖し続け、栽培後半に「坪枯れ」被害を引き起こします。日本では越冬しません。

### 2 「トビイロウンカ」の防除方法

トビイロウンカは、飛来時期や気象条件により増殖の年次変動が大きく、適期防除が難しい害虫です。トビイロウンカの増殖を抑えるためには、苗箱施薬が最も有効な防除方法となります。

ただし、苗箱施薬を使用したほ場でも以下の対策を実施しましょう！

- ・基幹防除（無人ヘリなど）は必ず実施する。
- ・基幹防除後もウンカの発生状況を確認し、発生量が多いようであれば追加で防除する。  
要防除水準：～8月上旬：2頭/10株  
8月中旬～：10頭/10株
- ・防除適期予測：第1世代幼虫 7/15～7/28  
第2世代幼虫 8/15～8/28  
第3世代幼虫（参考） 9/19

\*防除適期予測は、令和6年7月8日 大分県農林水産研究指導センター農業研究部「令和6年度 病害虫防除技術 第2号」から出典

・特別栽培米は農薬の使用成分数が限られているため、農薬の使用前に農協へ問い合わせをお願いします。

短翅型雌成虫（下図参照）が確認された場合は必ず防除しましょう！



トビイロウンカ（短翅型雌成虫）



トビイロウンカによる坪枯れ

## 【いもち病について】

いもち病は低温・多湿条件が続くと発病が多くなり、大分県では7月～8月中旬までが発生好適条件になりやすいという過去の試験結果があります。葉いもちが多発した圃場では、追肥の窒素施肥量を控え、穂いもちの防除は穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を基本とします。出穂後も曇雨天が続くなど穂いもちの多発が予測される場合は、穂揃期の7～10日後に追加防除を行いましょう。

常発田や軟弱徒長気味に生育している田では、発病状況を確認し早期の防除に努めましょう！

○大分県農林水産研究指導センターHP（QRコードから読み込み可能）から大分県病害虫発生予察情報についてご覧いただけます。

（集落営農・水田畑地化班 黒川）



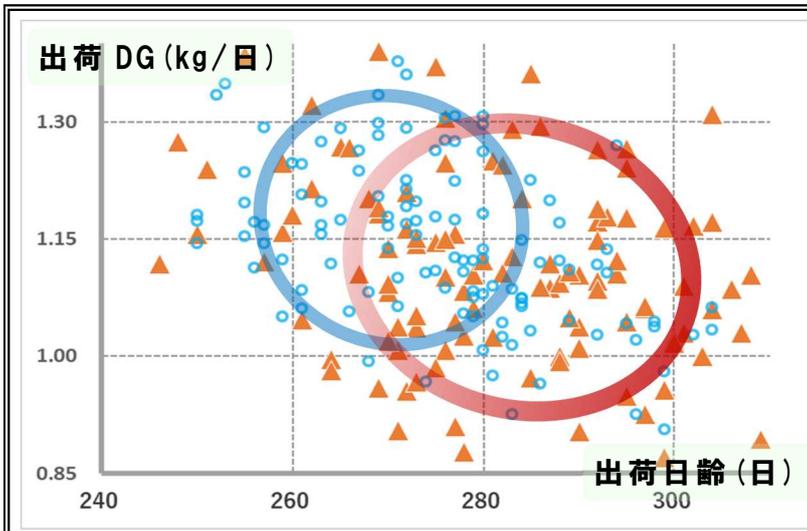
# JAおおいた西部営農経済センター キャトルステーション活用のすゝめ



## 【子牛管理はJAへ委託GO!】

令和6年4月に開設されたキャトルステーションでは、関係機関が連携し、『生産者の負担軽減』『子牛の発育改善・市場評価の平準化』に取り組んでいます。

子牛は、4ヶ月齢まで皆さんでしっかり飼養管理、以降はキャトルステーションを活用し、低迷する子牛市場相場に対処しましょう。



## 玖珠郡 去勢子牛の出荷実績 ( R3.6月とR6.6月の比較 )

- 3年前と比べて、発育の差が拡大
- 出荷 DG は、0.1 kg/日低下
  - 出荷日齢は、6.1日遅延

市場評価に影響

## 1 キャトルステーションの業務

### (1) 子牛の受入

4ヶ月齢以上の正常な玖珠郡の子牛。搬送承ります

### (2) 請負う作業

去勢や削蹄、毛刈等出荷まで約5ヶ月間の飼養管理

### (3) 子牛の引渡

玖珠家畜市場まで移送し、子牛市場当日に引渡し

### (4) ご利用料金

1日950円/頭(税抜)。治療費は別途利用者負担

## 2 お問い合わせ先

JA おおいた 西部営農経済センター 畜産課

TEL: 0973-72-2900

※ 職員巡回の際、お気軽にご相談ください。



ゆったり飼育で発育向上



去勢、出荷前手入はオマカセ

(畜産班 松崎)